

住み続けられるまちづくりを目指して

# 合馬校区

## 小地域福祉活動第1次計画



2024～2028（令和6年～令和10年）

ふれあいネットワーク



合馬校区社会福祉協議会

# も く じ

ごあいさつ		．．．．．	1P
第1章	計画策定にあたって	．．．．．	2P
	1. 計画の性格		
	2. 計画の期間		
	3. 計画の策定経過		
第2章	合馬校区の現状と課題	．．．．．	3P
	1. 地域社会の概要と福祉課題		
第3章	計画体系	．．．．．	4P
	1. 基本理念		
	2. 基本目標		
	3. 実施項目（体系図）		
	4. 重点実施項目		
第4章	計画の推進	．．．．．	10P
	1. 計画の承認と周知		
	2. 計画を推進するための体制		
	3. 第二次計画の策定		
参考資料		．．．．．	11P
	1. 策定委員会名簿		
	2. 「ふくしのまちづくりアンケート」		

ごあいさつ

## ～合馬校区小地域福祉活動

### 第1次計画策定にあたり～

合馬校区社会福祉協議会では、住民が安心して暮らせる支えあいのまちづくりを目指して、「まちづくり協議会」「自治連合会」「社会福祉協議会」と3つの組織を中心に、地域活動を進めてまいりました。

社会福祉協議会は、ふれあいネットワーク事業を中心に、校区の子どもから高齢者まで安心、安全に生活できるための地域福祉活動を行ってまいりました。

現在は、全国的に本格的な少子高齢化社会となり、世帯構造についても大きな変換期を迎えています。北九州市においても急速な少子高齢化や、障害を持つ人の増加、孤独死やヤングケアラーの問題など地域の生活課題は一層の多様化を見せており、地域福祉活動の重要性の高まりが必要とされています。また、2020年からは新型コロナウイルスの感染拡大予防と地域活動との共存という難しい問題も発生しました。その中で行政と民間団体との役割分担と協働の指針である「北九州市の地域福祉2021-2025」（北九州市地域福祉計画）が行政により策定され、また、行政計画と協働しながら北九州市社会福祉協議会が中心となって地域社会の福祉課題を解決するため「地域共生！きたきゅうプラン2021～2025」（北九州市地域福祉活動第六次計画）が策定されたところです。

合馬校区においても、今後地域福祉活動をより進めていくために、地域福祉を担う各団体がもう一度地域の福祉課題を共有し、課題解決に向けて話し合い、協働を生み出していく協議の場が求められています。そこで、北九州市の地域福祉計画および北九州市社会福祉協議会の地域福祉活動計画と整合性を持ちながら、住民主導による地域福祉活動を進めるため、新しい小地域福祉活動計画を策定いたしました。

この計画が、合馬校区の福祉活動の発展につながることを祈念するとともに、計画策定にあたりご尽力いただきました本計画策定委員会委員ならびにご意見をお寄せいただきました関係者の皆様に感謝を申し上げ、ごあいさつといたします。

合馬校区社会福祉協議会  
会長 日吉 明文

# 第1章 計画策定にあたって

## 1 計画の性格

### (1) 住民発信の活動計画

この計画は、合馬校区の様々な福祉課題を解決するために合馬校区社会福祉協議会が中心となって、地域の各団体と連携を取りながら、将来の見通しを持って計画的に活動するための計画です。

### (2) 小地域の生活を支える計画

この計画は、合馬校区に住む人たちの「安心・安全な生活」を支えることを活動の原点とする計画です。

### (3) 北九州市および北九州市社会福祉協議会と協働する計画

この計画は、北九州市および北九州市社会福祉協議会の計画と連携しながら地域福祉活動を進めていく計画です。

### (4) 合馬校区社会福祉協議会の活動指針となる計画

この計画は、社会福祉協議会が地域福祉推進の中核的な団体としての方針や、発展強化の道筋を明らかにする性格を有します。

## 2 計画の期間

令和6年度～令和10年度までの5カ年とします。計画の期間中に地域を取り巻く状況に大きな変化があれば、見直しを行います。

## 3 計画の策定経過

合馬校区では、地域福祉活動に取り組んでいる関係団体等からの意見をふまえ、合馬校区小地域福祉活動計画策定委員会を設置しました。令和5年6月に立ち上げた委員会において、13名の委員により4回にわたる協議の上、合馬校区小地域福祉活動計画を策定しました。

## 第2章 合馬校区の現状と課題

### 合馬校区の基本データ

人 口	434人	小 学 校	合馬小学校
世 帯 数	203世帯	中 学 校	菅生中学校
高 齢 化 率	39.6%	市民センター	両谷市民センター
福 祉 協 力 員	19人	地域包括支援センター	南23
民生委員児童委員	3人		

合馬校区は、小倉南区の南部に位置し、区域の多くを竹林が占める自然豊かな地域です。校区内には、合馬小学校や自治公民館、合馬農産物直売所や合馬竹林公園などがあるものの、病院はなく、公共交通機関もないインフラ整備が充実しているとは言えない地域です。高齢化も進んできており、高齢者のみの世帯や、単身世帯が増加しています。また、空き家対策も大きな課題の一つです。

地域福祉活動を行う上で、福祉協力員等の福祉活動者の平均年齢も高くなってきています。そのために校区内では、次世代の福祉活動者の育成が求められています。また、公共交通機関がないため、マイカーでの外出ができなくなった時に買い物や外出に困る世帯が増加しています。災害発生時等支援が必要な世帯の把握も急務です。

# 第3章 計画体系

## 1 基本理念

「誰もが安心して幸せに住み続けられる活気あふれるまちづくり」

合馬校区では、子どもから高齢者まで、障害のあるなしに関わらず、すべての住民が安心して幸せに生活できるまちにしたいと願っています。そこで「住み続けられるまちづくり」という言葉を基本理念として、計画を進めていきます。

## 2 基本目標

(1) 住民同士のふれあい・交流を深めよう

地域交流の場所の設置やイベントの企画を通して、住民間のつながりを深めていきます。

(2) 一人ひとりの安全で安心な暮らしを守ろう

安全で安心な暮らしを守るため、住民一人ひとりの意識を高め、いざという時のための助け合いに体制を整えます。

(3) 地域の「活動力」を高めよう

活動者の募集や育成、活動財源の安定的な確保に向けた活動を通して、地域の活動力を強化します。

(4) シビックプライドを高め、助け合いの心を育もう

子どもたちへの福祉教育を通して世代間交流を図り、地域に福祉の風土を醸成します。

### 3 実施項目（体系図）

### ◎…重点実施項目

基本理念 「誰もが安心して幸せに住み続けられる活気あふれるまちづくり」

#### 基本目標Ⅰ

住民同士のふれあい・  
交流を深めよう

- ◎健康ふれあいサロン「寄り処合馬」の充実
- 継続的なふれあい見守り活動
- 敬老行事の開催

#### 基本目標Ⅱ

ひとり一人の安全で安  
心な暮らしを守ろう

- ◎防災ネットワークの確立
- 福祉マップの更新
- 災害弱者の把握と支援

#### 基本目標Ⅲ

地域の「活動力」を  
高めよう

- ◎地域行事の充実
- 福祉協力員研修の実施・参加
- 学校行事への参加・支援

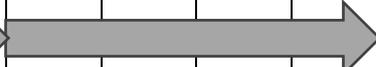
#### 基本目標Ⅳ

シビックプライドを  
高め、助け合いの心を  
育もう

- ◎ウェルクラブ活動の充実
- 多世代交流行事への支援
- あいさつ運動の実施

## 4 重点実施項目

重点実施項目 I		健康ふれあいサロン「寄り処合馬」の充実					
1 背景・課題・地域の現状							
<p>合馬校区は高齢化率が高く、長引くコロナ禍で自宅にこもりがちな住民が多くなっている。また、家と家との距離があり、市民センターまでの距離も遠いため、地域の高齢者が集うことが少ない。</p>							
2 活動の方針・目標							
<p>ふれあって話す時間や機会が必要で、その場所の提供が急務である。そのために校区内でのサロン開催、そしてサロン活動の内容の充実を図ることが重要である。また、声かけや誘い合いでより多くの住民が交流する場を提供することが目標である。</p>							
3 段階的な取り組みの年次計画							
取組内容	連携する機関	R6	R7	R8	R9	R10	5年後の達成目標
健康ふれあいサロン「寄り処合馬」の実施	まち協 自治会 老人会 民生委員	→					活動の継続
地域高齢者のニーズの把握(聞き取り調査)	まち協 自治会 老人会 民生委員	→					ニーズに対応したサロンの運営
サロンの評価・見直し	まち協 自治会 老人会 民生委員	→					活動の継続

重点実施項目Ⅱ		防災ネットワークの確立					
1 背景・課題・地域の現状							
合馬校区は災害危険区域が少なく、昭和28年以来大きな災害もないため住民の防災意識が低い。近年発生している未曾有の自然災害に対して、住民の防災意識を高める必要がある。また、災害時に高齢者や障害のある人などの災害弱者への救援体制づくりが急務である。							
2 活動の方針・目標							
高齢者や障害のある人など災害弱者と呼ばれる住民が安心安全に生活できるように、防災ネットワークを確立する。							
3 段階的な取り組みの年次計画							
取組内容	連携する機関	R6	R7	R8	R9	R10	5年後の達成目標
各町内会の連絡網の整備	まち協 自治会	作成 	見直し 				毎年見直し
要支援者の把握	まち協 自治会 民生委員						毎年更新
避難ルートの確認	まち協 自治会 小学校 PTA						必要に応じて見直し
校区防災体制づくり	まち協 自治会 小学校 PTA 民生委員						活動の継続

重点実施項目Ⅲ		地域行事の充実					
1 背景・課題・地域の現状							
合馬校区では古くから続く行事があるが、コロナ禍で中止が続き、再開したものの参加者の減少がみられる。地域の活動力を上げるためにも、地域住民が集う校区行事の充実を図る必要がある。							
2 活動の方針・目標							
校区行事を継続・継承しながらも、時代の流れに合わせ、実施方法に工夫を加えていく。							
3 段階的な取り組みの年次計画							
取組内容	連携する機関	R6	R7	R8	R9	R10	5年後の達成目標
合同慰霊祭・盆踊り大会の実施	まち協 自治会 PTA	→					行事の継続、必要に応じて実施方法の変更
新春尺岳登山への支援	まち協 自治会 小学校 PTA	→					行事の継続、必要に応じて実施方法の変更
どんど焼きの実施	まち協 自治会 PTA	→					行事の継続、必要に応じて実施方法の変更
合馬たけのこまつりへの支援	まち協 自治会 小学校 PTA	→					行事の継続、必要に応じて実施方法の変更

重点実施項目Ⅳ		ウェルクラブ活動の充実					
1 背景・課題・地域の現状							
福祉協力員をはじめとする福祉活動者の後継者育成は、地域の福祉活動継続のために必要不可欠である。将来の福祉活動の担い手である子ども世代やその親世代が「福祉」について学び考えることで、福祉の風土づくりを進める必要がある。							
2 活動の方針・目標							
地域高齢者との交流、後期高齢者への年賀状作り、多世代交流グランドゴルフや盆踊り大会への参加などのウェルクラブ活動を通して、福祉の心を育てていく。保護者や地域住民も巻き込んだウェルクラブ活動を通して福祉の風土づくりを進める。							
3 段階的な取り組みの年次計画							
取組内容	連携する機関	R6	R7	R8	R9	R10	5年後の達成目標
地域行事への積極的な参加	まち協 自治会 小学校 PTA	→					参加者の中から福祉活動者を発掘する
地域高齢者との交流	まち協 自治会 老人会 小学校 PTA	→					活動の継続
ウェルクラブ活動の内容の見直し・工夫	まち協 自治会 小学校 PTA	→					ウェルクラブ活動への参加者が全児童

# 第4章 計画の推進

## 1 計画の承認と周知

- ①合馬校区社会福祉協議会総会等を通じた社会福祉協議会活動者への計画承認と周知
- ②計画の実施項目を進めていく上での関係機関・団体への周知・協力依頼

## 2 計画を推進するための体制

### (1) 小地域福祉活動計画推進委員会の設置

計画を推進していくために合馬校区小地域福祉活動計画推進委員会を設置し、経過の進行管理を行います。

- ①関係機関・団体との連携
- ②計画内容の具体的な計画、実施
- ③進行管理の実施 等について協議を進めていきます。

### (2) 計画の進行管理

合馬校区小地域福祉活動計画推進委員会を年3回程度開催します。(当年度の事業推進の確認、年度内における中間確認、次年度の事業確認、また必要に応じて開催)委員会では、PLAN(計画立案)、DO(実行)、CHECK(点検・評価)、ACT(改善)というPDCAのサイクルを回しながら、計画内の各実施項目の進捗状況を把握し、うまく進行していない場合にはその原因を明らかにし、問題への対策を立ててその対応策を実施します。

### (3) 計画の評価

計画期間の中間時点では計画全体の中間見直しを、最終年度には総括評価を行います。

## 3 第二次計画の策定

第一次計画の推進状況を踏まえて、第二次計画の策定期間に第二次計画策定委員会を設置し、次期計画策定に向けて協議を進めていきます。

## 【参考資料】

### 合馬校区小地域福祉活動計画策定委員会委員名簿

	氏 名	所 属 団 体
1	日吉 明文	合馬校区社会福祉協議会会長
2	下田 順	合馬校区社会福祉協議会副会長
3	小田 豊	合馬校区社会福祉協議会副会長
4	古田 奈緒美	合馬校区社会福祉協議会副会長
5	立石 茂	合馬校区社会福祉協議会会計
6	川副 進	合馬竹林公園館長
7	川副 麻美	民生委員児童委員
8	三村 理恵子	民生委員児童委員
9	廣津 礼子	主任児童委員
10	中村 正史	合馬校区まちづくり協議会会長
11	永津 龍二	合馬小学校 PTA 会長
12	高田 晋仁	合馬小学校校長
13	佐々木 直子	両谷市民センター館長